

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3070104280		
法人名	有限会社 ふるさと		
事業所名	グループホーム ふるさと		
所在地	和歌山市小瀬田85番地		
自己評価作成日	平成26年2月19日	評価結果市町村受理日	平成26年4月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kajikokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3070104280-00&amp;PrefCd=30&amp;VersionCd=022">http://www.kajikokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3070104280-00&amp;PrefCd=30&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県社会福祉士会
所在地	和歌山県和歌山市手平2丁目1-2 和歌山ビッグ愛6階
訪問調査日	平成26年3月18日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>本人と家族を交えて要望を聞き、適切と思われるアドバイス等を行い、少しでも快適な毎日が過ごせる様、支援している。常に入居者中心に何事も考え行動し、出来る限り本人の自由を拘束しない。また、快適な毎日を過ごすには健康管理が重要である。その為、当ホームでは複数の医療機関と提携して、専門医の適切な医療が受けられるようにして医療連携を特に重視している。なお、受診する際の送迎等については、車イス移動車を導入しており、出来るだけ家族様に負担をかけない様に配慮している。基本的には、次の三つのスローガンを基に行動している。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.常に入居者様を中心に如何にして安心した快適な毎日を過ごすことが出来るか。</li> <li>2.入居者様の健康管理は重要で些細な事でも見逃さない様十分に管理し、常にベストな体調を維持しているか。</li> <li>3.家族様には安心してお預けしていただき、家族様の負担軽減につながり、お役に立つことが出来るか。</li> </ol>
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホームの持つ機能と特性を永年にわたり、入居者と共に築いている。スローガンに示された、利用者本位の姿勢と共に考え、家族との関わりを絶やすことなく、安心・安全を約束し、高齢者の健康維持への手厚い医療連携を実践している。入居者の加齢による病気の進行や介護の重度化に寄り添いながら、「地域の中で暮らし続けること」を支えている事業所である。訪問調査当日には、入院先から体調を取り戻し退院した入居者を「我が家に帰ってくる」うれしい帰宅を笑顔で迎える管理者と職員の様子が見られた。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を理解、共有、実践するためホール掲示板に掲示している管理者、職員は取り組み方を検討し(会議等)考えや要望を出している。 ホールの天井は高く、中庭もあり、開放感や景観を満喫できるような設計にしている。	地域密着型サービスの意義を職員全員で確実に把握し、継続支援と地域との関係性を大切にしている事が窺われる。立地は、のどかな風景と手入れの行き届いた季節の花樹がある中庭があり、景観も良く、落ち着いた佇まいである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動や自治会集会等に参加し、つながりを大切にしている。 近隣農家の方々から野菜や、果物を頂いたり、共に外出したり、地域の一員として交流を図っている。	暮らしに密着した「ご近所づきあい」を大事にし、畑の作物の差し入れや気がねのない訪問が日常となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議開催を通じ、地域の方々や地域の高齢者の方々との親睦を深め、またホームでの行事に参加して頂いている。 地域での文化祭に作品を出品し、地域の方の作品も鑑賞させて頂き、交流を深めている。研修会等をする際には、公民館をお借りするなどの協力を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に地区住民代表、家族代表、包括支援センター、民生委員、市役所支所長、自治会長の協力を得て、開催している。 ホームでの活動の状況や入居者の状態、災害時の対応等、様々な支援について話し合っ協力をお願いしている。またホームへの要望等も拝聴し、話し合う。認知症の研修会にも参加して下さる。	会議は、事業所からの報告だけでなく、積極的な意見交換の場となっており、充実した内容となっている。災害時には地域より応援協力を得られるようになっており、地域関係の構築が見られる。次回の会議では、例年の花見会開催についての検討が勘案事項として予定されており、ホーム内行事が地域行事としての位置付けともなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	和歌山市役所の安原支所とは、連携を密にさせて頂いている。支所長、自らがボランティアとしてホームでの活動に参加して頂いたり、地域での行事等も声をかけて頂き、参加させて頂く。 連合自治会長の協力もあり、情報交換やホームへのアドバイスもいただいている。	事業所設立者である管理者の地域力から、支所長や連合自治会長との強い絆を持っており、積極的なホームへの訪問もあり、会長自らのボランティア参加の協力を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部講師を招き、またホーム内での勉強会にて法令を学ぶ機会を設けている。マニュアルの作成や職員会議の議題に取り上げる等、身体拘束をしないケアを目指し取り組んでいる。 また職員全体が、受講しやすいように配慮している。玄関のカギは入居者の希望もあり、施錠している。	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会を外部講師を招き職員が全員学習できるようにしている。又、伝達講習などを利用して、職員全体の共通認識を図っている。入居者の重症化に応じて車いす利用の頻度も高くなる現状であるが、危険予防への見守りや連携をケアの中に見つける事ができる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内での研修は勿論のこと、外部より専門家を招き、勉強会を開いている。自己啓発を促し、今年目標を職員個々に、作成し、より良いケアを目指し職員が受講しやすいよう支援している。研修等にも積極的に参加すすめ、報告会(勉強会)で全職員が学ぶ。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	専門家を招き、研修会を行ったり、権利擁護推進員の職員との勉強会を開きみんなで理解を深め、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には入居後予測されるリスクや心身の低下、退去後にかかわる全ての事柄について、ご本人、ご家族様の不安や問題点をお尋ねし、わかりやすい言葉で十分な説明を行い、ご理解をいただけるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会議や面会時など、ご家族とは常にご連絡を取るようにし、話しやすい雰囲気作りを行っている。身近な職員が、ご家族とお話できるように、面会時には居室にてお茶をお出しする際に、日常の様子をお話したり、意見などをお伺いしている。	理念の一つである家族への関わりの場面では、職員からの積極的なコミュニケーションの心がけがあり、家族意見が伺えやすい雰囲気作りにも努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が意見や提案をしやすいように職員ノートの活用、ご意見箱を作るなどの工夫を行っている。食事会、懇親会などの気軽な場を設け、話しやすい雰囲気作りにも努めている。	代表者や管理者は、常に職員からの要望やケアへのアイデア・意見を聞くように心がけている。職員ノートや懇親会の機会を用意して、風通しのよい職場環境づくりに努めている。既存の御意見箱の敷居を低くして、〇〇(管理者名)缶(気軽に自分の意見や気持ち、アイデアを入れていく缶)の活用で、現場の声の投函を確認できた。	介護スタッフの年齢が若く経験が浅くとも、入居者への自然な関わりや和やかさ、日常の笑顔、言葉によるコミュニケーションの場を確認できた。今後も、自己評価項目12・13・14の項目との関連の中での取り組みを継続していくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	上級の資格取得や研修会など職員各自が向上心を持ち、参加できるよう勤務形態などの調整をしている。資格取得者など様々な実績や努力に対し特別賞与を提供している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の講師や自施設内で研修修了者による勉強会を月1回以上設け、新人職員には中堅職員がリーダーとなり、役割をもち指導にあたり職員個々に学べる機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域資源の利用により地域文化祭の参加団体、同業者との交流を図っており、相互訪問や交流会での交通費や諸費用にも配慮している。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人、ご家族、各関係事業者や主治医の先生からの情報に基づき、アセスメントを行い、不安なこと、ご要望に十分に耳を傾けて、信頼関係を構築することで自施設での食事会、イベントなどの参加をして頂き、些細なこと、疑問点をお話できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記と同様に入居前面談よりご家族様の不安なこと、ご要望について十分に受け止め、解決策を話し合える機会を設けるなど入居後の方向性などについてあらゆる場面を想定し、ご理解、ご納得して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様が「その時で」、まず求め、要する支援について十分、話し合える機会を設け、サービス開始後からも、ご本人に必要と考えられるサービス利用についても話し合えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様を中心に考え、行動し、入居者から信頼して頂けるよう季節の行事や、年中行事などのレクリエーションを考え、活気ある生活をして頂けるように、また日々の食事メニューも入居者の要望を取り入れながら工夫をこらしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ふるさと便りを通じて、ご家族との接し方に配慮して近況報告を行い、ご本人へのサービスがご家族の安心感へのつながりと共に、同じ気持ちで接していけるように行事などにも積極的な声かけにも努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	深夜を除いて、面会時間は自由になっており、気兼ねなく来所して頂けるように努めている。ご本人の外出や、外泊への要望にも配慮し、支援している。 ご本人、ご家族の気持ちを配慮していることから、ご家族の訪問は多く、それに伴い、外出に行かれる回数も多く、今後も続けられるように支援している。	理念の一つである家族との継続的な交流の場が希薄にならないように、また、友人や知人宅、馴染みの美容院等の送迎を支援する等の積極的な事業者の取り組み姿勢が見られた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士での出来ることや、分かることを職員も共有し、サポートを行っている。 入居者各自の個性を尊重して、支え合い、助け合える環境作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても入居中の信頼関係は継続できるよう適時、連絡を取っている。 退所後であっても来所は自由であり、各相談にも応じる支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの要望を聞き、職員個々がご家族から得た情報や、生活歴を把握し、職員が情報交換を行いながら、安心した日常生活になるよう支援を行っている。 ご家族からの情報や日々の生活の中での本人様子、要望など把握できるよう努めている。	狭い意味での介護のためのみのアセスメントや意向の把握にとどまらず、その方の生活歴・職業歴等を伺うことも実践している。そこから、暮らし方の希望・思いの把握に繋げる事が出来ると考え、機会を通じて繰り返すように努めている。その意味で、一般的な「マニュアル化」は不可能な項目であるとの管理者の日々の姿勢を確認した。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族とのコミュニケーションを日頃から密に図ることで、過去の生活歴、また新たなご本人の情報の収集が出来ることで、より良い介護過程の展開につながり、従来の生活に近づけるような個別援助に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の状態を常に把握し、日々のバイタルチェックを行うとともに、心身に対する支援については主治医の指示、指導の下で努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人ひとりのケアの在り方をカンファレンスで計画の見直しを行い、より良いサービスの提供、介護過程が行えるようケアプランを作成している。 アセスメントを含め、各関連職種と連携し、介護計画を作成し介護過程の展開を行っている。	現状に即した実践的な介護計画作成のために、独自の自己達成表・評価表→チームによるカンファレンス→ケアプラン作成→実践の過程を6ヶ月毎を基本に介護過程の展開を行っている。医療看護からの留意点や必要時の介護処置等を、関係医療機関等との連携から、指示を頂き、実践している事を確認できた。	今後は介護計画がいかに現状へ反映されるかを全体で把握し理解できるようにするため、設定期間の明確化と整合性を進めることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や申し送り、日常生活状況を把握し、職員間で情報の共有を行いながら記録を明記し、バISTECKの7原則も念頭におき、より良い介護過程の展開に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	複数の医療機関と連携、連絡をとり定期的な通院や往診を行っており、健康管理に十分な配慮に努め、主治医の指示や指導、また日常からのご本人からの要望、ご家族の希望などにも傾聴し、運営推進会議内で、包括支援センターとの相談を行うなど、社会資源も活用しながら多角的な視点で、柔軟なサービスの提供に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員である民生委員、連合自治会、地域自治会、市役所支所長などの協力のもと、各種催事の情報などを頂き、参加させて頂き、また地域の文化祭に出品させて頂くなど、入居者と職員で見学させて頂いています。地域の公民館を借り、地域の方々も加えて、研修会なども行っております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関とは連携を密にしており、定期的な往診に来て頂き、入居者への各種指示や指導、感染症予防などの指導、夜間の緊急時には連絡させて頂き、昼夜で迅速な対応に協力して頂いております。往診時にはご家族に連絡を行い、ご本人、主治医、ご家族、職員が立ち会いのもと、ご本人の現状にあった医療の提供に努めている。	一人ひとりの「かかりつけ医」(多種、又、数多くの医療機関)への受診支援を確認できる。必要に応じてのご家族への連絡報告とともに、病状や状態の共通理解を深めて頂くために、医療説明と選択、同意を頂けるように、関係調整をしていることは、理念に掲げる健康管理に重点をおいた生活サポートの姿勢として確認できた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの看護師が随時あるいは緊急時、その他の相談や指導など対応して頂いています。 往診時には医師は勿論のこと、看護師も同行され、生活状況や体調などについても職員を交えて相談に応じて頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者の状態については往診を通じて、医師、看護師とともに把握して頂いているため、入院しても適切な処置が行われるために退院も比較的早く出来ることが多い。 退院後には定期往診だけでなく、臨時の往診も行われるなど十分な対応をして頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時点より、ご家族、ご本人とは想定出来る体調の変化などについて連携医療機関の主治医からのお話も含み、十分にご理解頂けるような体制を整えている。 連携医療機関には老人保健施設などの事業所も併設されているために、主治医とご本人、ご家族、関係職種などで話し合いを行い、重度化に対しても対応できるよう努めている。	外部評価11項目でも表わされている受診支援で分かるように、重度化への対応や終末期に向けた方針に際しても、必要な時期に医療を本人、家族等との連絡調整の上、チームで支援する事に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時に備えての対応マニュアルを作成し、会議での話し合いや研修を行い、慌てることなく、対応できるよう取り組んでいる。 入居者の急変時には、主治医や看護師に指示を仰ぎ、冷静に対応できるように努めている。急変初期の対応については提携している訪問看護師による勉強会で対応できるよう学ぶ場を設けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に備え、定期的に避難方法や消火器の位置、避難ルートを明記した図面を掲示板に貼付し、迅速に対応できるよう努めている。またスプリンクラーの設置、管理も行っており、火災受信機ならびに通報装置や連絡方法なども、消防署の立会いの下、訓練も行っている。 運営推進会議においても地域の方々と連携し、災害時における体制、協力も得ている。その他、避難袋や、非常食等も準備、管理している。	防火訓練や自然災害時の避難経路から運営推進会議における協力サポート体制が構築できていることが分かる。ホールの誰もが分かる場所には、入居者全員の避難袋があり、避難を容易にするホーム内でのスペースのゆとりを確認できた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は入居者ごとの要望を傾聴し、一人ひとりのニーズを見出すとともに、尊厳の保持を行いながら、ご本人が個人的に希望する氏名の呼ばれ方などにも、創意工夫を行い、日々の声かけの言葉づかいや会話の中での言葉に気をつけ、尊厳を損なわない対応を行っており、そのための勉強会や専門家を招くなども行っている。毎月の全体会議において、日々の言葉づかいについての見直し、言葉の重要性の周知やカンファレンスでの入居者個々に応じた関わり方を検討し、実践につながるよう努めている。	職員に対しては、外部講師を招き、人権教育の場を用意して、「尊厳あるケア」を周知している。毎日の生活場面では、日々の自然な声かけ、ケア情報記録や表情から、尊厳に留意されたさりげない排泄行動へのサポートが確認できた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各入居者ごとに対して、ご本人に理解しやすい言葉を選び、また筆談や写真、言葉だけに縛られず様々なコミュニケーションの方法を用いることで、ご本人の思いやニーズの抽出を行い、ご本人やご家族の思いの反映なども配慮し、ご本人自身が決定する内容に責任能力があるかを常に考えながら自己決定、本人本位の日常生活になるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のスケジュールを職員や施設の都合できめるのではなく、入居者一人ひとりの生活リズムを把握して、その生活に沿えるよう努めている。また、日々の生活の中からご本人の要望を傾聴し、その時々状況に合わせ、可能なかぎり要望に沿えるような支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容師との提携を行い、入居者一人ひとりの嗜好、ご家族の要望を反映させた髪型やカラーなどにも取り組んでおり、衣類などはご本人が昔から馴染みのある衣類を入居時にご用意して頂いたり、ご家族がご用意して頂いた衣類を着用して頂くなど、家庭での生活を継続できるような支援に取り組んでいる。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一日の食事に関しては毎週ごとに献立を作成しており、その作成の際には各入居者から希望するメニューを聞き、反映させながら一人ひとりの状態と照らし合わせ、要望に沿えるように努め、季節を感じられるメニューや、催事でのメニューなども配慮しており、ホーム内だけではなく外食会なども取り入れながら日々の食事を楽しんで頂けるよう取り組んでいる。 献立や、各入居者の要望、また季節感のあるメニュー、催事のメニュー、外食会などは積極的に取り組んでいるが、食事の準備に関しては衛生面、また準備、調理の際による不慮のけが等を考慮し、準備、配膳に関しては職員が行っているが、下膳や食事に使用する膳の片付けなど職員だけで行うのではなく事故などのリスクが少ない部分で入居者とともにやっている。	各ユニットでの食事場面では「美味しい物を楽しく食べる」工夫がみられ、季節弁当の配達を利用したり、催事での楽しみ食・誕生日には入居者の希望メニューを取り入れる等、バラエティに富んだ内容となっている。介助の必要な方には状態に応じて職員が共に膳を囲む配慮がなされている。近隣の方からの新鮮な旬の野菜や果物が食に活かされている。また、管理栄養士を招き、メニューの提供や栄養摂取や、水分摂取量の確認など、健康面でのサポートとして、「食への知識」を学んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量の摂取表を従来から作成し、使用しており、入居者一人ひとりの状態を把握できるよう取り組んでおり、また身体機能に合わせ、主治医と相談を行いながら、食事形態の工夫、トロミ材の使用なども行っており、夜間に水分を飲用したいという要望などにも積極的に取り組んでいる。過去の習慣や嗜好品などもアセスメント表を活用しながら献立作成も行っている。また提携医療機関の管理栄養士を招き、栄養管理についての学ぶ場を設けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者一人ひとりの身体状況に合わせた口腔ケアが行えるように、一人ひとりの残存機能を職員間で共有し、食後の歯磨き、うがい、義歯の洗浄など一日の中で口腔内や義歯が清潔で、心地よく過ごして頂き、食事の際にも気持ちよく食事をして頂けるよう支援し、夜間も義歯を使用されている方は義歯洗浄剤を用意し、使用するなど昼夜で口腔内の清潔を保持できるよう努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を活用し、排泄リズムを把握し、職員間で共有しながら残存機能を活かした排泄が行えるよう支援し、失敗を防ぎ、自尊心に配慮するよう努めている。 また一人ひとりの習慣などにも配慮しながら、常に現況の排泄状況、失敗を少なく、自立した排泄を行って頂くため、日頃から職員間で話し合いを行っている。	入居者の身体機能の重度化により、車いす利用者も増え、居室内トイレの排泄が困難となってきた。スペースの広い共用型トイレを利用する頻度が高くなったことを好機と捉え、介護の検討がなされ、自尊心に配慮された、排泄における自立支援への取り組みがなされていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックは日々、行っており一日の水分量や入居者一人ひとりの嗜好に配慮しながら食事内容にも工夫をし、また便秘の原因や予防のために主治医と相談を行いながら、その指導の下、運動や内服薬の調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、入浴できる準備、環境を整えており、入居者一人ひとりのその日の状況や希望に沿って入浴支援を実施している。また入浴が難しい場合においても足浴や清拭浴なども行っており、また入浴剤を活用するなど入浴を楽しめる環境、清潔の保持のため創意工夫に努めている。入浴後には乾燥など予防するために提携医療機関から保湿剤の処方やご本人、ご家族が用意が用意される保湿剤なども活用している。	本来は自由形の毎日入浴を進めている事業者であるが、健康サポート面では入浴による疲労の検討も必要とする事も増え始めている。シャワーチェア等の導入や浴槽内リフト之設置も検討中である。入居者の身体機能に応じた負担の少ない入浴を、職員全員で検討が必要な時期である。	介護の重度化に伴う入浴支援の方法を環境整備をふまえて、検討すべき時期であると考え、今後の入浴支援に期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人ひとりの過去の生活歴や、現状での疾病、心身の状況を把握し、全室個室となっているため、日々一人ひとりの様子を捉え、思いを傾聴し、ご自身の居室で休息して頂けるような支援に取り組んでいる。 また休息して頂く場合には、居室内の空調、家具や寝具といった環境面にも、ご本人やご家族の要望や、馴染みのある以前から使用していた物を使用させて頂いている。 夜間においても十分な睡眠をとって頂けるように、環境整備を行うとともに、入眠、安眠が難しい場合には、原因についても職員間で情報交換を行い、また主治医とも相談を行い、快適な睡眠が出来るよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人ひとりの薬については薬品名、容量、効能、副作用を明記した資料を以前から作成しており、職員は常に閲覧し、入居者一人ひとりの処方されている薬を把握できる環境を整えている。 また、服薬の支援については主治医と相談を行い、残存機能を活かしながら錠剤での処方、粉剤での処方など状態に合わせ支援し、服薬状況を確認する記録、投薬記録なども活用しながら服薬支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活で、洗濯物を干したり、食事の片付けなど家事が行える方には、ご本人の意思を確認し、残存機能の活用につながるよう支援し、テレビの歌番組が好きな方には視聴して頂ける環境を作り、新聞を読むことが楽しみな方には購読できる環境を整備したりと、入居者一人ひとりの生活歴を尊重した支援にも取り組んでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホームの畑には梅の花、桜の花が植えられており、室内から花見が出来る環境を作っており、またご本人の要望をご家族に伝え、外出して頂けるよう配慮し、職員と入居者が近隣のスーパーに買い物に行くなどの外出支援に取り組んでいる。 地域との交流も積極的に取り組んでおり、ホーム全体と地域住民の方で桜の花見会の毎年、欠かさずに行っており、恒例行事となっている。	日常的な外出の機会や戸外へ出かける取り組みが確認できる。また、新たな地域資源の発掘への働きかけがみられ、小旅行を提供できる「いちご狩りツアー」へのチャレンジ検討がなされている。入居者本人に合わせた移動の安全性を配慮をしながら、郊外へ出かける計画が、提供できる事に大きな期待を感じられた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者各人の状態に合わせ、ご家族様と相談の上、管理が可能な方は本人が管理している。外出行事の際など、本人様が希望する物を購入して頂く機会ももって頂き、サポートしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	固定電話は勿論のこと、携帯電話をお持ちの方もおられ、特に規制はなく、ご本人の要望に合わせ、その都度で電話の使用を支援している。 手紙のやりとりをされる方には、切手やハガキを購入し、やりとりが出来る環境を整備しており、投函等に関しては職員が代行して行っている。また年賀状や暑中見舞いなどは職員と一緒に絵葉書どを作成する場も設けている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には、季節ごとの観葉植物を飾り、障害物になるようなものは取り除き、天井は高く、窓も多い設計になっているため、太陽光も入りやすく、開放的な環境となっている。 日々、居室内や共有空間の清掃だけでなく、居室内における洗面台や、トイレの便座カバーの交換など細やかな部分の清掃も行っており、より快適に過ごして頂けるよう努めている。	共用空間の清潔な居心地良い環境が整備されている。日中の多くの時間を過ごす場所には、安全性の高いイスの配置があり、玄関や勝手口への出入りには、段差解消の手段を施し、生活感や季節感のあるものを上手く活用しながら「暮らしの場」を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では、日当たりの良い場所や、窓側にはベンチやイスを置き、また玄関ポーチにもイスを置くなど、おひとりですつろげる場所を作り、ホール内のテーブル席は自由に使用することができ、テレビの前にはソファも設置しているため、一人の時間や複数での時間を過ごして頂けるような空間作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者個々の生活歴より、ご本人、ご家族にとって馴染みのある家具や寝具、装飾品や仏壇などご自宅で生活を営んできた環境作りに努めており、全室に設置しているコルクボードに写真を貼付したり、ポスターを貼ったりと、入居者個々の嗜好に合わせ、居心地の良い居室となるよう支援している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部、共有空間には手すりをめぐらせ、移動時に障害となりうるものは無くし、安全で自由に日々の生活を送って頂けるような環境を整備し、全室にトイレも設置され、手すりも設置しており、安全に配慮した設計となっている。 また、ご自身の居室がわかるように全室には表札をつけ、個人のスペース、個々の居場所作りに取り組んでおり、開放感のある環境作りに努めている。		